

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470102478		
法人名	社会福祉法人 碓山会		
事業所名	居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム		
所在地	大分県大分市大字津守字長田2547番地の6		
自己評価作成日	平成25年8月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に恵まれ、広々としたリビングでゆとりある生活空間を目指している。栄養士さんによる手作りの食事を提供し、週1回医師の診察で、利用者の健康管理に努める。年6回の外出支援、家族会の開催、月1回のおやつ作り等生活の為のケアを行なっている。デイの利用者との交流や、地域行事の参加で地域との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、開設して10年目であるが、マンネリ化を防ぐために研修を重ね、介護福祉士の資格の取得者が多い。また、理念に沿ったケアが展開されている。
- ・運営推進会議をうまく活用し、地域住民との触れ合いや家族、職員の意見を聞き、運営に反映している。
- ・広報誌を年に4回発行しており、家族へ「お知らせ・お願い」の項目をつくり、家族の意見が出やすいようにしている。
- ・介護計画書については、実践に繋げるようにケアプラン実施の記録が詳細である。ケアの実践記録のデータを分析し、ステップアップに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作り、わかりやすく玄関に掲げている。職員は毎日確認し、実践している。	理念は、「意思と人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスを提供する」など4項目を掲げている。目につきやすい玄関や事務室に貼り、日々振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物に参加し、ボランティアを受け入れ、月1~2回デイホールに行き交流している。	地区の「芸能文化祭」に参加し、地域の一員として、お神楽や歌・舞踊・屋台などの催し物に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の中にキャラバンメイトの登録をし仲間作りをしている。新聞を発行し、地域に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回推進委員が集まり、近況報告等で、1時間半にわたり、意見交換している。	運営推進会議は市職員や自治委員・老人会・家族・地域包括センター等の参加者より、積極的に意見を出してもらっている。参加者の意見を基に運営に反映している。会議記録も詳細である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議、ケアプラン見直しの報告等で協力関係を築いている。	長寿福祉課職員が必ず運営推進会議に参加している。市職員より感染症のマニュアルづくりのアドバイスやケアプランの見直しの助言などを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で、拘束となる行為を理解しており、玄関の開放等でケアに取り組んでいる。	開設当初から玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。特に、帰宅願望の強い利用者には、常に職員が寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員会議で全員に共有し、防止に努めている。		

事業者名:居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者もおり、状況を把握している。研修会に参加し、職員全員に共有して理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分に時間をかけ、説明を行ない、理解、納得していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、又家族会で家族のみの話し合いをしていただくようにしている。	3ヶ月毎に広報紙を発行し「お願い・お知らせ」の欄を設け、家族より運営に関する意見をもらっている。家族の意見を基に、バーベキューや夕涼み会などを実施している。また、年に一度の家族会では個別に意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や振り返り等で、意見、提案を共有し、検討している。	運営に関する意見や提案を月一回、定例会議や朝礼などで検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援は行われ、向上につながっている。その他はない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し、職員会議で勉強会をし、研修会にも参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム専門委員会に加入しており、研修や交換会に参加し、質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所日には、本人が早く環境に慣れていただく為、職員が送迎したり、観察記録をつけ、職員全員で共有し、言葉、行動を大切に、より早く信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、利用者に面談を行ない、生活歴、環境を把握するとともに、面談にはなるべくご本人と同席していただき、話をするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所として、できるサービスを説明する事はいうまでもなく、対応不可能場合は、別の事業所へ紹介している。又、病気の場合は受診できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、共に支え合っている仲間であると認識を持ち、利用者と共にご本人のできる事探しを、暮らしの中から見つけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご利用者が一緒に参加可能である行事を、年1回行事として行い、信頼関係が築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、地域の人々が来館しやすいように、来館時にはお茶等を出し、おもてなしの心を伝えるようにし、又入りやすい雰囲気作り心掛けています。	地域の高齢者が併設のデイサービスに来ており、気軽に触れあっている。面会者に対し、職員が「おもてなしの心」で接し、馴染みの関係が途切れないようにしている。墓参りや故郷訪問など行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各々の状態把握に努め、席替え等によりトラブルを避け、友好関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったりしている。年賀状等ハガキで連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時希望、意向の把握に努めている。担当者会議等で検討するようにしている。	アセスメント項目は、今まで培ってきた生活歴を重視し、多くの職員に意見を聞き、利用者の立場になって意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人からの情報や、生活の中での観察や、職員からの情報で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方、生活のリズムを理解するとともに、出来る事を探し、本人の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限りご本人、ご家族の意向を聞いている。職員会議等で話し合い、その人らしい生活が送れるように介護計画を作成している。	一人ひとりの情報を基に実践しやすい介護計画書を作成している。実行可能な介護計画書に沿っており、日々のケアの中で活かされている。記録を基にモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表や個別記録、日報等で日々の変化等を共有し、実践に生かしている。介護計画の見直しにもつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や外食等支援し、外泊、外出の要望に応じる対応や市役所の手続き、病院受診の対応をしている。		

事業者名:居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている芸能祭に参加し、地域の中学生のボランティアやお楽しみ会、誕生日会のボランティアの訪問等で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診の支援、年1回の健康診断や急変時の受診の支援をしている。	かかりつけ医が定期的に来診している。医療ニーズの高い利用者には、専門医と連携をとり、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイの看護職員との連絡がとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームで対応可能な段階で、出来るだけ早く退院できるように医師と相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に文書で説明し、その後もご家族と話し合いをしながら今後の対応をしている。	利用開始時に重要事項説明書を用いて重度化や終末期について事業所で「できる事・できない事」を文書で説明し、心身の状況に応じて特養や入院に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修に行っている。緊急マニュアルを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。	年2回防災訓練が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇会議の中で、職員の言葉使いや対応について意見を出し合い、改善している。	当事業所の理念の中に、「意思と人格を尊重して…」と掲げているように、常に利用者の立場に立ち、一人ひとりの気持ちに寄り添うケアを提供している。定例会議の中で言葉遣いや対応について振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースを守るよう心掛け、何をしたいのかご本人の希望を聞くように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで生活できるよう希望を尋ね、選択できるような場面を作るようにしている。個別ケアの実施。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はご本人の意思によって決定できるよう支援している。化粧等これまでの生活習慣を継続できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立を掲示したり、毎食ご飯、小鉢、お茶のつぎ分け等それぞれ役割を持ち、出来る事をしていただく。毎月のおやつ作りを実施している。	利用者一人ひとりの潜在能力を見出し、食事準備の役割を持っている。また、おやつは好みを聞き、職員と一緒に買い物に行き「ひやき」や「ホットケーキ」「だんご汁」を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行ない、1日の水分量の把握をしている。好みの飲み物等でも対応している。咀嚼、嚥下機能に応じ、食材のカット等を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の見守りにより、確実に歯磨き、口腔ケアを行なう。食前の口腔体操を行ない、嚥下障害の防止、口腔機能向上に努めている。2/wは義歯の消毒をしている。		

事業者名:居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、布パンツを使用できるように心掛けている。時間を見て排泄誘導したり、状態に応じて、パット等に対応している。	個別に排泄パターン表を作成し、トイレ誘導を行っている。できるだけおむつは避け、布パンツやパットで対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を飲む・水分を多く摂る・消化の良い食べ物を多く摂る・体操をする等、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1w4日以上の入浴を実施している。夏季の入浴日以外は希望を尋ねて、シャワー浴を実施している。	利用者に入浴の希望を聞き、夏季の入浴は週4回以上入っている。また、シャワー浴で対応する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れているとか、横になりたいようであれば、居室で静養していただけるように、布団の準備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用時には手渡しし、確認を行なっている。医師、看護師に相談、指示を受けられるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の訴えを優先して、掃除、茶碗洗い、散歩等気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と出掛けたり、館外散歩を行なっている。月1回の外出・買い物支援を心掛けている。	利用者の希望により、近隣の散歩や家族と一緒に出かけたりしている。また、外出支援はドライブや地域の行事、買い物など、また、3ヶ月に一度の外出に出掛けている。	

事業者名：居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を所持されている方がおられる。所持金については職員がある程度把握している。買い物支援ができる人は、スーパー等に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は少ないが、出来る限り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に努め、清潔感のある空間づくりを心掛けている。ホール壁面にご利用者・職員合作のカレンダーを毎月飾っている。	利用者と職員で毎月、手作りの壁画カレンダーを作り、飾っている。また、利用者が気軽に趣味活動ができるよう、道具(お習字や折り紙など)を目に触れる場所に設置するなどやる気が起きるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他に、フロアーを囲むように3つのソファがあり、ご利用者同士で話されたり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や布団など、ご自宅で使用されていたものを使用している。写真や植物を飾って安らげる空間を作っている。	利用者や家族の意向を聞き、思い出の写真や観葉植物、ラジカセなどを置き、また、転倒しないようマットレスの工夫など自立を損なわないような工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは、写真や絵、文字などで、わかり易いようにしている。居室内も、ご家族と相談しながら、ご利用者に合った安全かつ、自立した生活が送れるように工夫している。		